

学校間のグローバル・パートナーシップ樹立に関する考察 — 広島大学地区および米国ノースカロライナ州イーストカロライナ大学地区 におけるパートナーシップづくりを中心に —

広島大学大学院教育学研究科 小篠 敏明・深澤 清治・朝倉 淳・神山 貴弥

1 はじめに

国際理解教育、グローバル教育の重要性が提唱されるようになって久しい。情報技術の革新とも相俟って、あらゆる面での国際化が急速に進んでいく中で、国際理解教育、グローバル教育の重要性はますます高まっていると言えよう。

しかし、日本の学校教育にあっては、そのような急激な変化に十分に対応することができないでいる。その背景の一つには、教員自身や学校自体の国際理解や国際化が必ずしも進んでいない状況がある。

本プロジェクトは、そのような状況にみられる諸問題に対して正面からアプローチしていくものであり、新しい世紀を生きる子どもたちを育てる教育のあり方のひとつを示すものとなるであろう。

ここでは、学校間のグローバル・パートナーシップ樹立について、パートナーシップづくりがどのように行われたか、また参加教員がどのような国際理解を得たか、広島大学地区および米国ノースカロライナ州イーストカロライナ大学地区における事例を中心に報告する。

2 本プロジェクトの概要

2.1 本プロジェクトの目的

グローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクト (Global Partnership Schools Project: GPSP) は、米日財団の研究助成を受け、1999年5月より3年計画で、日本側3地区 (大阪教育大学地区、鳴門教育大学地区、広島大学地区)、米国側3地区 (イーストカロライナ大学 (以下、ECU) 地区、ノースカロライナ大学ウィルミントン校 (以下、NCUW) 地区、ウェスタンカロライナ大学 (以下、WCU) 地区) において展開されているプロジェクトである。研究代表者は、日本側が大阪教育大学の米川英樹教授、米国側がイーストカロライナ大学 (East Carolina University) のドナルド・リー・スペンス教授 (Dr. Donald Spence) であり、双方が相互に相手国を訪問し研究を推進する、

いわゆるミラープロジェクトである。

本プロジェクトの目的は、前述の日米両国それぞれ3大学、計6大学が協力し、両国の小学校・中学校・高等学校、各学校レベルの国際パートナーシップづくりを行うことである。この目的を達成するために、両国の教員が相互訪問を行い、「日米の友好を促進する。」「教育の世界において協働する。」及び「各研究課題について調査・研究する。」ための具体的な研究活動を行った。

2.2 広島大学地区の研究組織

広島大学地区では、1999年5月18日に学校教育学部 (2000年4月より旧教育学部と統合し新たに教育学部となった。さらに2001年4月からは大学院教育学研究科に改組された。) 国際交流委員会のメンバーを中心とする以下の研究会をつくり、本プロジェクトの推進にあたることとなった。研究会の名称は、「広島グローバル・パートナーシップ・スクール研究会」である。

[組織]

会長	小篠敏明		
顧問研究員	濱口 脩	鳥越兼治	小原友行
専門研究員	深澤清治	朝倉 淳	神山貴弥

[研究員の役割]

会長および顧問研究員は、プロジェクト全体の進行を指揮し、必要に応じてアドバイス等を行う。プロジェクト推進の実務は専門研究員があたる。専門研究員の実務分担は概ね以下に示すものとする。

- ・米側大学関係者との折衝、英文報告書の作成等に関する実務：深澤清治
- ・日本側大学関係者との折衝に関する実務ならびに研究会内実務：神山貴弥
- ・派遣・受入時の各学校、教育委員会等との交渉に関する実務：朝倉淳

3 米国ノースカロライナ州初等・中等教育教員の広島大学地区受入状況

3.1 第1年次 (1999年6 - 7月) の受入状況

6月15日から29日の日程で、米国教員が日本に派遣された。そのうち6月21日から26日の期間において各大学地区での研修（各地区、米国の小中高教員計7名、大学コーディネータ1名）が実施され、27日には広島地区において全体のサマリー・ミーティングが行われた。

①受入校と配属の決定

研究会発足から米国教員受入までの期間が短かったため、小中学校については学部と日頃からつながりの強い広島大学附属東雲小・中学校、同三原小・中学校に教員の受入を依頼した。高等学校については、ノースカロライナ州ECU地区での教職経験をもつ教員が所属する広島県立祇園北高等学校に受入を依頼した。十分な準備期間がなく、またプロジェクト初年度ということで見通しを持ちにくい中、快諾を得ることができた。なお、ECU地区・広島大学地区米国側コーディネータDr. Helen Parke、米国側ディレクタDr. Donald Spenceは、随時各参加者に同行することとなった。以下、受入校別に受け入れた米国教員と地区を示す。なお、E. S. はElementary Schoolを、M. S. はMiddle Schoolを、H. S. はHigh Schoolを表している。

■広島大学附属東雲小学校

Ms. Roxana Robeles-Cox, Clyde E. S. (WCU)

■広島大学附属三原小学校

Ms. Patricia Phillips, Wahl-Coates E. S. (ECU)
及び広島地区参加者全員

■広島大学附属東雲中学校

Mr. Polly Crabtree, Exploris M. S. (ECU)

■広島大学附属三原中学校

Ms. Barbara Hurn and Mr. Marshall Mattson,
Martin M. S. (ECU) 及び広島地区参加者全員

■広島県立祇園北高等学校

Ms. Lou Cannon and Mr. Bob Phillips, Rose H.
S. (ECU) 及び広島地区参加者全員

②広島大学地区での受入期間の日程

◆6月21日(月) 広島大学学校教育学部学部長（高橋超教授）表敬訪問と各学校訪問についてのオリエンテーション（広島アステールプラザ泊）

◆6月22日(火) 広島大学附属三原幼稚園・小学校・中学校を訪問、幼小中一貫教育研究会へ全員が参加
広島地区ウェルカム・パーティー（広島アステールプラザ泊）

◆6月23日(水) 各受入校を訪問（広島大学山中医館泊）

◆6月24日(木) 各受入校を訪問（広島大学山中医館泊）

◆6月25日(金) 広島大学附属東雲中学校の公開研究会に参加 広島地区フェアウェルパーティー（アステールプラザ泊）

◆6月26日(土) 文化体験（アステールプラザ泊）

◆6月27日(日) サマリー・ミーティング 全体フェアウェルパーティー（アステールプラザ泊）

3.2 第2年次（2000年6-7月）の受入状況

6月15日から7月2日の日程で、米国教員が日本に派遣された。そのうち6月23日から30日の期間において各大学地区での研修（各地区、米国の小中高教員計7名、大学コーディネータ1名）が実施され、7月1日には大阪教育大学においてサマリー・ミーティングと送別会が行われた。

①受入校と配属の決定

学校間のパートナーシップ樹立の趣旨から、米国教員の所属校とすでに交流がある学校を優先して受入校を選定し、受入を依頼した。その結果、以下のような形で受入られることとなった。なお、ECU地区・広島大学地区米国側コーディネータDr. Helen Parke、米国側ディレクタDr. Donald Spenceは、随時各参加者に同行することとなった。以下、受入校別に受け入れた米国教員を示す。

■東広島市立御薮小学校

Ms. Faye Nelson, Virginia Williamson E. S.
(NCUW)

■広島大学附属東雲小学校

Ms. Summer Lewis, Clyde E. S. (WCU)

■広島大学附属三原小学校

Ms. Cheryl Adams, Wahl-Coates E. S. (ECU)
及び広島地参加者全員

■広島大学附属東雲中学校

Mr. Eric Westendorf, Exploris M. S. (ECU)

■広島大学附属三原中学校

Ms. Shawna Andrews and Mr. Scott Tiernan,
Martin M. S. (ECU) 及び広島地区参加者全員

■広島県立井口高等学校

Ms. Marie Satz, New Bern H. S. (ECU)

■広島県立祇園北高等学校

広島地区参加者全員

②広島大学地区での受入期間の日程

- ◆6月22日(木) 広島市内および宮島での文化研修に三地区の米国教員全員が参加(広島アステールプラザ泊)
- ◆6月23日(金) 広島大学附属三原学園幼小中一貫教育研究会へ全員が参加(広島アステールプラザ泊)
- ◆6月24日(土) 昼食会 広島市内から東広島市への移動(広島大学山中会館泊)
- ◆6月25日(日) 広島県内日帰りツアー(広島大学山中会館泊)
- ◆6月26日(月) 広島大学学校教育学部長(田中春彦教授)表敬訪問 広島県立祇園北高等学校訪問(広島大学山中会館泊)
- ◆6月27日(火) 各配属校を訪問(広島大学山中会館泊)
- ◆6月28日(水) 各配属校を訪問(広島大学山中会館泊)
- ◆6月29日(木) 各配属校を訪問 広島大学地区レセプション(広島大学山中会館泊)
- ◆6月30日(金) 大阪へ移動

3.3 第3年次(2001年6-7月)の受入状況

6月18日から7月2日の日程で、米国教員が日本に派遣された。そのうち6月21日から29日の期間において各大学地区での研修(各地区、米国の小中高教員計7名、大学コーディネータ1名)が実施され、7月1日には鳴戸教育大学においてサマリー・ミーティングと送別会が行われた。

①受入校と配属の決定

学校間のパートナーシップ樹立の趣旨から、前年次と同様に米国教員の所属校とすでに交流がある学校を優先して受入校を選定し、受入を依頼した。米国から新規に参加した学校の教員については、新たに近隣の東広島市立の学校に受入を依頼した。なお、ECU地区・広島大学地区米国側コーディネータ Dr. Carolyn Ledford、米国側ディレクタ Dr. Donald Spence は、随時各参加者に同行することとなった。以下、受入校別に受け入れた米国教員を示す。

■東広島市立御薮宇小学校

Ms. Nona Baker, Virginia Williamson E. S.
(NCUW)

■東広島市立三ッ城小学校

Ms. Suzanne Hachmeister and Ms. Claudia Harris,
Elmhurst E. S. (ECU)

■広島大学附属三原小学校

Ms. Cynthia Watson, Wahl-Coates E. S. (ECU)
及び広島地参加者全員

■広島大学附属三原中学校

Ms. Janet Knighten and Mr. Wayne Miller, Martin
M. S. (ECU) 及び広島地区参加者全員

■広島県立井口高等学校

Mr. Christine Riesbeck, New Bern H. S. (ECU)

■広島県立祇園北高等学校 広島地区参加者全員

②広島大学地区での受入期間の日程

- ◆6月21日(木) 広島市内および宮島にて文化研修、広島地区ウェルカム・パーティー(広島アステールプラザ泊)
- ◆6月22日(金) 広島大学附属三原学園幼小中一貫教育研究会へ全員が参加(広島アステールプラザ泊)
- ◆6月23日(土) 昼食会 広島市内から東広島市への移動、ホームステイ(ホストファミリー宅泊)
- ◆6月24日(日) ホストファミリーとの日帰りツアー(広島大学山中会館泊)
- ◆6月25日(月) 広島県立祇園北高等学校訪問、三ッ城古墳見学、東広島市立三ッ城小学校訪問、広島大学大学院教育学研究科研究科長(利島保教授)表敬訪問、大学関係者と夕食会(広島大学山中会館泊)
- ◆6月26日(火) 各配属校を訪問(広島大学山中会館泊)
- ◆6月27日(水) 各配属校を訪問(広島大学山中会館泊)
- ◆6月28日(木) 各配属校を訪問、広島大学地区レセプション(広島大学山中会館泊)
- ◆6月29日(金) 鳴門市へ移動

3.4 米国ノースカロライナ州初等・中等教育教員の受入に関する考察

受入校等の協力を得て、大きなトラブルもなく、パートナーシップ樹立にむけての活動・交流が実施された。米国側の教員、受入校・日本側の教員の双方から活動・交流の成果が得られたことが報告された。3年間に、東広島市立御薮宇小学校と Virginia Williamson E. S. (NCUW)、広島大学附属三原小学校と Wahl-Coates E. S. (ECU)、広島大学附属東雲中学校と Exploris M. S. (ECU)、広島大学附属三原中学と Martin M.

S. (ECU) との間で姉妹校提携を進めるための国際交流協定書に調印・署名することができた。

また、外国人教員の受入を学校に依頼する際の依頼過程及び連携・連絡体制、各校における受入準備や児童・生徒との対面・関わりの場づくりなど、外国人教員の受入に関するノウハウを蓄積することができた。

課題は、プロジェクトの運営をより円滑にして多くの成果をあげるための情報管理である。受入開始までにできるだけ多くの情報をスピーディーに交換する必要がある。外国との意思疎通にはいろいろな困難が伴うが、情報の環境整備を図っていくことが求められる。

4 広島大学地区小学校・中学校・高等学校教員の米国ノースカロライナ州への派遣状況

4.1 第1年次の派遣状況(2000年3月-4月)

2000年3月24日から4月6日の日程で日本教員が米国に派遣され、そのうち3月25日から4月2日の期間において各大学(ECU、NCUW、WCU)地区での研修が行われた。各大学地区への配置は次のとおりである。

・ECU地区

日本小中高教員7名 日本側コーディネータ1名

・NCUW地区

日本小中高教員7名 日本側コーディネータ1名

・WCU地区

日本小中高教員7名、日本側コーディネータ1名

4月3日からは2日間にわたり日本側訪問団全体での教育施設訪問やサマリー・ミーティングが行われた。

①派遣校・派遣教員の決定過程

1999年8月に、広島グローバル・パートナーシップ・スクール研究会(以下、広島GPS研究会)として米国への派遣校・派遣教員の募集計画を立てた。その際、米国教員を受け入れているので交流が始めやすいという経緯から、広島大学附属東雲小学校・中学校、広島大学附属三原小学校・中学校から各1名、合計4名の派遣教員を募集することにした。また東広島市教育委員会に依頼し小学校もしくは中学校から1校・1名、計1名、広島県教育委員会に依頼し県立の高等学校から2校・各1名、計2名、合計3名を派遣教員として募集することにした。

同年9月に募集計画に基づき募集をかけ、同年10月末までに派遣校・派遣教員を決定した。東広島市教育

委員会からは同市立御園宇小学校が、広島県教育委員会からは同県立祇園北高等学校、同県立広島井口高等学校が派遣校として決定され、各学校より1名の派遣者が推薦された。決定された参加者および派遣先は次のとおりである。

■東広島市立御園宇小学校 教諭 西谷恵美子

Virginia Williamson E. S. (NCUW)

■広島大学附属東雲小学校 教諭 宮本真由美

Jonathon Valley E. S., Clyde E. S. (WCU)

■広島大学附属三原小学校 教諭 半直哉

Wahl-Coates E. S. (ECU)

■広島大学附属東雲中学校 教諭 鹿江宏明

Hendersonville M. S. (NCUW)

■広島大学附属三原中学校 教諭 木本一成

Martin M. S. (ECU)

■広島県立井口高等学校 教諭 山下雅

New Bern H. S. (ECU)

■広島県立祇園北高等学校 教諭 江草章仁

Rose H. S. (ECU)

■奈良県三郷町立三郷北小学校 教諭 松田博美 ※

Wahl-Coates E. S. (ECU)

■大阪府八尾市立上之島中学校 教諭 福田正尚 ※

Martin M. S. (ECU)

■鳴門教育大学附属中学校 教諭 近藤博之 ※※

Martin M. S. (ECU)

※ 大阪教育大学地区からECU地区への派遣教員

※※ 鳴門教育大学地区からECU地区への派遣教員

②広島大学地区の派遣事前学習会・事後学習会

広島大学地区で行われた広島GPS研究会の事前学習会・事後学習会の日程およびその主な内容は以下のとおりである。

◆第1回事前学習会 1999年12月4日(土)

1) 参加者自己紹介・学校紹介、2) プロジェクトの概要説明、3) 現在までのプロジェクト進行状況、4) 事前準備事項(研究課題・学校紹介等)の説明、等

◆第2回事前学習会 2000年1月29日(土)

1) 日本の学校教育の概要について、2) 学校紹介について(参加者間で検討)、3) 研究課題について(参加者間で検討)、4) 派遣に関する情報提供・諸連絡、等

◆第3回事前学習会 2000年3月11日(土)

1) 研究報告書の作成について、2) 進捗状況の報

告と書類の作成、3) 派遣に関する情報提供・諸連絡、等

◆事後学習会 2000年5月20日(土)

1) 研究報告書(案)等についての交流、2) 第2回米国教員受入についての説明と協議

③ECU地区での派遣期間のスケジュール

- 3月25日(土) グリーンビル到着
- 3月26日(日) ウェルカム・パーティー
- 3月27日(月) Rose HS, Martin MS, Wahl-Coates ESの各学校訪問
ECU教育学部学部長表敬訪問
ECU副学長表敬訪問
- 3月28日(火) 各校訪問
- 3月29日(水) 各校訪問
- 3月30日(木) 各校訪問
- 3月31日(金) 各校訪問 レセプション
- 4月1日(土) 文化体験、歴史施設訪問
- 2日(日) ローリーに移動

4.2 第2年次の派遣状況(2001年3月-4月)

2001年3月23日から4月5日の日程で日本教員が米国に派遣され、そのうち3月23日から3月31日の期間において各大学(ECU、NCUW、WCU)地区での研修が行われた。各大学地区への配置は次のとおりである。

・ECU地区

日本小中高教員6名 日本側コーディネータ2名

・NCUW地区

日本小中高教員7名 日本側コーディネータ1名

・WCU地区

日本小中高教員8名、日本側コーディネータ2名

4月2日からは2日間にわたり、日本側訪問団全体での教育施設訪問やサマリー・ミーティングが行われた。

①派遣校・派遣教員の決定過程

派遣校・派遣教員の決定過程は基本的に前年次と同様とした。広島大学学校教育学部と関係の深い広島大学附属東雲小学校・中学校、広島大学附属三原小学校・中学校から、各校1名、計4名を募集した。東広島市からは、東広島市教育委員会に依頼し、小学校もしくは中学校から1名を募集した。広島県からは、広島県教育委員会に依頼し、広島県立高等学校2校から各1名計2名を募集した。

各附属校および東広島市教育委員会からは、11月末までに、派遣教員の推薦を受けた。また、広島県教育委員会からは12月末までに派遣教員の推薦を受けた。広島グローバル・パートナーシップ・スクール研究会において、推薦された教員を参加者として決定した。結果的には、すべて前年次と同様の学校からの派遣となった。決定された参加者および派遣先は次のとおりである。

■東広島市立御薮宇小学校 教諭 小池周

Virginia Williamson E. S. (WCU)

■広島大学附属東雲小学校 教諭 川上公範

Jonathon Valley E. S., Clyde E. S. (NCUW)

■広島大学附属三原小学校 教諭 見藤孝二

Wahl-Coates E. S. (ECU)

■広島大学附属東雲中学校 教諭 三樹正典

Exploris M. S. (ECU)

■広島大学附属三原中学校 教諭 今川卓爾

Martin M. S. (ECU)

■広島県立井口高等学校 教諭 西木豊

New Bern H. S. (ECU)

■広島県立祇園北高等学校 教諭 松崎親男

Rose H. S. (ECU)

■奈良県三郷町立三郷北小学校 教諭 小阪昇※

Wahl-Coates E. S. (ECU)

※ 大阪教育大学地区からECU地区への派遣教員

②広島大学地区の派遣事前学習会・事後学習会

広島大学地区で行われた広島GPS研究会の事前学習会・事後学習会の日程およびその主な内容は以下のとおりである。

◆第1回事前学習会 2001年1月27日(土)

1) 参加者の自己紹介、2) プロジェクト概要の説明、3) これまでの活動報告、4) 個別研究・共同研究の趣旨説明、5) 報告書の作成について、6) 諸手続き

◆第2回事前学習会 2001年3月10日(土)

1) 現地日程の説明、2) 学校紹介について(参加者間で検討)、3) 研究課題について(参加者間で検討)、4) 派遣に関する情報提供・諸連絡、5) 諸手続き、6) 第1年次参加者との交流昼食会

◆事後学習会 2001年8月4日(土)

研究報告書(案)等についての交流

③ECU地区での派遣期間の日程

- 3月24日(土) グリーンビル到着
 3月25日(日) ウェルカム・パーティー
 3月26日(月) ECU 教育学部長表敬訪問(副学部長と面会)
 ECU国際交流課を訪問
 Martin M. S. Wahl Coates E. S.
 New Bern H. S. を訪問
 3月27日(火) 各校訪問
 3月28日(水) 各校訪問
 3月29日(木) 各校訪問 レセプション
 3月30日(金) 各校訪問
 3月31日(土) ホームステイほか
 4月1日(日) ローリーに移動

4.3 第3年次の派遣状況(2002年8月)

2002年8月16日から29日の日程で日本教員が米国に派遣され、そのうち8月17日から25日の期間において各大学(ECU、NCUW、WCU)地区での研修が行われた。各大学地区への配置は次のとおりである。

・ECU地区

日本小中教員6名 日本側コーディネータ2名

・NCUW地区

日本小中高教員7名 日本側コーディネータ1名

・WCU地区

日本小中高教員6名、日本側コーディネータ2名

8月26日からは2日間にわたり日本側訪問団全体での教育施設訪問やサマリー・ミーティングが行われた。

①派遣校・派遣教員の決定過程

第3年次は、プロジェクトの最終年次にあたることから、前年次までに姉妹校提携を結んだ学校、結ぶ可能性が高い学校を派遣対象とすることが、プロジェクト全体の方針として確認されていた。また、派遣人員についても、派遣時期が前年次までの3月末から4月初めの時期から変更となり(米国側学校のイースター休暇と重なるため)、8月派遣となったために経費の関係で7名から6名になった。そのために、まず、前年次までに姉妹校提携を結んでいた東広島市立御薮字小学校、広島大学附属東雲中学校、広島大学附属三原小学校・中学校の4校を決定した。次に、第3年次に米国側から派遣された小学校(Elmhurst E. S.)および新設の小学校(Northwest E. S.)が今回の米国側受け入れ校となることがECUのコーディネータ側から示されたことから、これまでの派遣・受入の経緯から広

島大学附属東雲小学校および東広島市教育委員会からの推薦小学校(東広島市立平岩小学校)を派遣校とすることとした。

各附属校および東広島市教育委員会からは、5月29日を締切として、派遣教員の推薦を受けるようにした。その後、6月1日(土)に広島GPS研究会のメンバーが、各推薦者の面接を行い、推薦者全員を参加者として認めることを決定した。決定された参加者および派遣先は次のとおりである。

■東広島市立御薮字小学校 教諭 森重章子

Virginia Williamson E. S. (WCU)

■東広島市立平岩小学校 教諭 田中宏憲

Elmhurst E. S. (ECU), Northwest E. S.

■広島大学附属東雲小学校 副校長 上之園強

Elmhurst E. S. (ECU)

■広島大学附属三原小学校 教諭 石井信孝

Wahl-Coates E. S. (ECU)

■広島大学附属東雲中学校 教諭 柳原弘典

Exploris M. S. (ECU)

■広島大学附属三原中学校 教諭 松尾砂織

Martin M. S. (ECU)

■奈良県三郷町立三郷北小学校 教諭 太田啓子*

Wahl-Coates E. S. (ECU)

*大阪教育大学地区からECU地区への派遣教員

②広島大学地区の派遣事前学習会・事後学習会

広島大学地区で行われた広島GPS研究会の事前学習会・事後学習会の日程およびその主な内容は以下のとおりである。

◆第1回事前学習会 2002年6月15日(土)

1)参加者の自己紹介、2)プロジェクト概要の説明、3)これまでの活動報告、4)個別研究・共同研究の趣旨説明、5)報告書の作成について、6)諸手続き

◆第2回事前学習会 2002年7月27日(土)

1)現地日程の説明、2)学校紹介について(参加者間で検討)、3)研究課題について(参加者間で検討)、4)派遣に関する情報提供・諸連絡、5)諸手続き、6)第1年次・第2年次参加者との交流昼食会

◆事後学習会 2002年9月21日(土)

研究報告書(案)等についての交流

③ECU地区での派遣期間の日程

8月17日(土) グリーンビル到着

- 8月18日(日) ウェルカム・パーティー
- 8月19日(月) Wahl-Coates E.S., Elmhurst E.S., South Central H. S. を訪問
- 8月20日(火) 各校訪問
- 8月21日(水) 各校訪問
- 8月22日(木) 各校訪問 レセプション
- 8月23日(金) 各校訪問
- 8月24日(土) ホームステイほか
- 8月25日(日) ローリーに移動

4.4 広島大学地区小学校・中学校・高等学校教員の米国ノースカロライナ州への派遣に関する考察

派遣に関しても、3年間を振り返り全体を通してみただけの場合には、米国側の各受入校の多大な協力のもと、パートナーシップ樹立にむけての活動・交流が活発に推進された。この3年間に姉妹校提携には到らなかった学校を含めて、大方の米国側学校では、単に授業観察や学校視察を受け入れるだけでなく、日本側教員が子どもや教員と直接かかわる場を設け、積極的に相互理解の進展に努めてくれた。また、日本側教員の個別研究にかかわる要望を受け入れ、現地での日本側教員の授業実践や調査研究にも快く対応し、協力をしてくれた。こうした要望は、コンタクトパーソンを通じて派遣前から学校側に事前に知らせておくことでスムーズに受け入れられる傾向が強く、パートナーシップの樹立にむけては、連絡窓口をしっかりと確保することの重要性が示された。

上記のように概ねどの学校においても、交流に積極的・協力的であったが、姉妹校提携を結ぶなどして3年間継続的にこのプロジェクトに参加した受入校では、事前の連絡体制や日本側教員の受入体制などが年々確立されていくこともあり、日米教員相互の連携がうまくなされていたように感じた。多くの姉妹校協定が年限を定めてではあるが複数年にわたる提携関係を締結したように、相互理解を進展させるためには単発型の交流ではなく、継続型の交流が肝要であることが示されたように思われる。

しかし、一方で姉妹校協定を結んでも、交流に積極的だったコンタクトパーソンや管理職が学校を移動することで、交流や提携が解消されるわけではないが、新たにゼロからのスタートとなるケースも見受けられた。これは、米国側だけでなく、日本側の学校においても共通にみられる問題点であり、交流が派遣された

教員や受け入れに直接かかわった教員に限られ、他の教員や子どもを交えた学校全体としての取り組みになっていない場合に起こる問題である。国際交流に限らず、現在、日本の学校現場では、同校種・異校種、あるいは他機関との交流が盛んに行われるようになってきたが、交流を継続することによる効果を望むのであれば、学校全体の取り組みとして交流をしっかりと位置づける必要があるといえよう。

派遣に関しては、現地での通訳の確保が大きな問題であるが、今回のプロジェクトでは、通訳として本プロジェクトを支えてくださったボランティアの方々的人数も時間も年々多くなり、それにともなって参加者が得た成果も充実したものになったように思われる。ボランティアとして本プロジェクトを支えてくださった方すべてにこの場を借りてお礼申し上げます。

5 学校間のグローバル・パートナーシップ

5.1 広島地区における姉妹校提携の状況

既に述べたように、この3年間に広島地区では、東広島市立御薗宇小学校と Virginia Williamson E. S. (NCUW)、広島大学附属三原小学校と Wahl-Coates E. S. (ECU)、広島大学附属東雲中学校と Exploris M. S. (ECU)、広島大学附属三原中学と Martin M. S. (ECU) との間で姉妹校提携を進めるための国際交流協定書に調印・署名することができた。

5.2 交流の実態

これまでに、学校間で行われた主な交流をまとめると以下のようなになる。

①児童・生徒間の交流

- ・ 図画工作等の作品交流
- ・ ビデオレターによる交流
- ・ 学校の様子や文化について質問を通しての交流
- ・ パートナーを決めた上で相互のプロフィール交換による交流 等々

②児童・生徒と教師間の交流

- ・ 訪問時の授業参観
- ・ 訪問時の授業実践
- ・ 訪問時の各種文化体験（伝統的な遊び・茶道・習字など）を通しての交流 等々

③教師間の交流

- ・ 訪問時の授業参観
- ・ 訪問時の授業実践

・訪問時に教育活動等についてのインタビューを通しての交流

・テレビ会議システムの稼働 等々

5.3 学校間のグローバル・パートナーシップに関する考察

この3年間に関していえば、姉妹校提携を締結後も本プロジェクトを通して、教員の相互訪問があったために、訪問した教員が中心となって、児童・生徒間、教師と児童・生徒間、教師間といった様々なレベルでの交流が行われ、学校間のグローバル・パートナーシップに貢献してきたように思われる。最近では、インターネットの普及により、直接訪問をしなくても、容易に電子メールの交換やテレビ会議システムの利用などを通して国際交流が可能になってきた。しかし、本プロジェクトが推進してきたように、関係者が直接訪問することの意義は、姉妹校提携を促進し、両者の相互理解を図る上で非常に大きいことがわかる。こうした直接的交流には、様々なコストがかかるが、財政的な援助さえあれば、日米の教員ともに子どもの成長を願ってあらゆる努力を惜しまないことは、3年間の交流実績が示した通りである。

ただし、教員の直接訪問があれば、必ず学校間のグローバル・パートナーシップに結びつくというわけではない。前述したように、交流に積極的だったコンタクトパーソンや管理職が学校を移動することで、学校間の交流が新たにゼロからのスタートとなるケースや、個人の体験で終わってしまい、そもそも学校間の交流にまで結びつかなかったケースも見受けられた。学校間のグローバル・パートナーシップを進展させていくためには、そうした意味で当然のことながら学校全体の取り組みとして交流をしっかりと位置づけることが肝要となる。実際、こうした位置づけがはっきりした学校では、訪問による子どもの直接交流も視野に入れ、よりグローバルな交流につなげていこうとしている。

6 参加教員の個別研究にみる国際理解

6.1 広島地区からの参加者個別研究テーマ一覧

広島地区からの参加者の個別研究テーマについて、年次別に報告書の題目、参加時の所属、参加時の職名、氏名の順に示す。(順序は、小・中・高の校種順、氏名の五十音順とする。)

[第1年次]

■「子どもの絵でこんにちはー図画工作科における国際交流の実践的試みー」広島大学附属三原小学校 教諭 半直哉

■「私の見たアメリカ、ノースカロライナ、ウィルミントンー2つの学校の比較を通してー」東広島市立御蘭宇小学校 教諭 西谷恵美子

■「食生活から国際理解を広げようー日本とアメリカの食事の比較を通してー」広島大学附属東雲小学校 教諭 宮本真由美

■「日米の中学校理科における教育プログラム及び教材の開発とその実践的研究Iー必修理科や環境教育におけるインターネットを利用した実践ー」広島大学附属東雲中学校 教諭 鹿江宏明

■「話し言葉教育におけるコミュニケーション能力育成の日米比較研究ー対立する意見をいかに解決するか、日米の教室文化の違いー」広島大学附属三原中学校 教諭 木本一成

■「学校の国際化を進めるために」広島県立祇園北高等学校 教諭 江草章仁

■「日米高校生の学校・学習に対する意識の比較」広島県立広島井口高等学校 教諭 山下雅

[第2年次]

■「小学校における国際理解教育のあり方ー日本とアメリカにおける小学校の事例を通してー」東広島市立御蘭宇小学校 教諭 小池周

■「日本とアメリカの情報教育(コンピュータ活用)の比較研究ーアンケートをもとにした現状や意識の違いー」広島大学附属三原小学校 教諭 見藤孝二

■「学校と保護者との関係から見えてくる国際理解ーFairview小学校の訪問を通してー」広島大学附属東雲小学校 教諭 川上公範

■「スクールカウンセリングにおける教師とカウンセラーの連携ーアメリカ・ノースカロライナ州の公立学校の事例に学ぶー」広島大学附属三原中学校 教諭 今川卓爾

■「日米の中学生における色の感じ方の比較研究ー広島大学附属東雲中学校とExploris Middle Schoolの中学生の比較を通してー」広島大学附属東雲中学校 教諭 三樹正典

■「日米の高等学校におけるカリキュラム・授業評価方法・生徒指導・進路指導についてー祇園北高等学校とRose High Schoolの比較を通してー」広島県立祇園

北高等学校 教諭 松崎親男

■「日米の高等学校における生徒指導の比較－広島井口高校とニューバーン・ハイスクーラー」広島県立広島井口高等学校 教諭 西木豊

[第3年次]

■「幼稚園教育と小学校低学年教育との連携に関する考察－Wahl-Coates Elementary School における Grade K 及び Grade 1 の教育活動の観察を通して－」広島大学附属三原小学校 教諭 石井信孝

■「学校と地域社会とのかかわり－Elmhurst Elementary School を事例として－」広島大学附属東雲小学校 副校長 上之園強

■「基礎学力を定着させる教育環境および学習指導のあり方－アメリカ（ノースカロライナ州）の小学校の場合－」東広島市立平岩小学校 教諭 田中宏憲

■「自己表現力及び心の育成における指導法の比較」東広島市立御園字小学校 教諭 森重章子

■「日本とアメリカの学校における情報教育の比較研究－異文化理解に必要な学習指導のありかたの研究－広島大学附属三原中学校と Martin Middle School の比較を通して－」広島大学附属三原中学校 教諭 松尾砂織

■「日本とアメリカの学校における情報教育の比較研究－広島大学附属東雲中学校と Exploris Middle School の比較を通して－」広島大学附属東雲中学校 教諭 柳原弘典

6.2 個人研究に関する考察

個人研究として掲載された報告は20編である。個人研究の内容別の内訳は、教科等の構成や指導法・教育法に関するものが14編、カウンセラーの役割や生徒指導に関するものが3編、地域社会や保護者とかかわり方など学校運営に関するものが3編であった。

ここでは、各研究に見られた共通点として、3点を示す。1点目は、「違い」との出会いである。他国での教育の現実に直面したときに、まずその違いに気付いていったことが記されている。2点目は、その気付きから生まれる問いである。違いに気付くことは、その背景や理由を求め理解していこうとする営みに発展している。3点目は、自らの教育のありように対する見直しである。違いに出会うことによって、通常は当たり前のこととして受けとめている教育のありように対する見直しが生まれている。関心や焦点の当て方は様々であるが、いずれの個人研究にもこのような気付き、理解、見直しを認めることができた。

一見、個人的な国際理解に見えるが、学校間のパートナーシップづくりには欠かせない教師自身の変容の姿と言えるであろう。

7 おわりに

本プロジェクトの主要な目的である学校間のパートナーシップづくりは着実に進んでいる。特に、前述のとおり4組8校が国際交流協定に調印・署名にいたったことは、その具体的な成果である。しかし、強固で継続的なパートナーシップづくりは、むしろこれからということになるであろう。実質的な交流が行われ、関係校の児童・生徒の国際理解が深まるように支援していくことができれば幸いである。

日米両国の参加者が直接的な異文化体験をしたこと、両国において国際理解教育の活動やプログラムが開発されたことなど、相互訪問によって個人的なレベルから学校レベルにいたるまで大きな成果が得られている。

最後になりましたが、広島県教育委員会、東広島市教育委員会をはじめ、ご協力をいただいた関係機関や関係諸氏に心から感謝いたします。